

保健指導からみた諸問題：
子どもの発達と母子関係の継続的考察
— 3) 2歳6か月時の状況と心理相談所見の内容分析 —

児童家庭福祉研究部 望月 武子
総合母子保健センター保健指導部 盛 富美
" 河西 恵子

9か月、1歳6か月に引き続き、2歳6か月時の心理相談を受けた559名について、日頃、親が扱いに困る子どもの行動のアンケートと心理相談所見から、この時期の母子の問題を検討した。

1) 親が扱いに困る行動では、食事の問題が最も多く、ついで反抗、睡眠の問題、甘え、排泄の問題となり、ほとんどがこの時期の発達に伴う行動としてとらえられるものであるが、親は扱いに迷い不安をもっていた。これらの行動の出現は、親の養育のあり方と強い関連がみられ、生活の中で親子がおかれている状況を反映するものであった。

2) 心理相談で継続的な援助の必要性が認められたものは、女兒に比べ男児に多く、また、9か月、1歳6か月、2歳6か月時を比較すると漸増傾向があり、母親にとってこの時期の育児の困難さを示すものと考えられる。しかし問題の消長はかなり流動的であり、親の接し方に負うところが大きく、この時期の適切な支援の必要性とその効果が考えられる。

見出し語：2歳6か月時健診、心理相談、親が扱いに困る行動

Problems from the viewpoint of the Health Guidance
Continuous Research in Child Development and Maternal and Child Relationship
— 3) Situation of Children at 2.5 Years of Age and Analysis
of the Content of the Views on Psychological Guidance —

Takeko MOCHIZUKI. Fumi MORI. Keiko KAWANISHI.

Problems in reference to maternal and child relationship found through the questionnaire on "Children's behavior on which their Parents feel problematic" and the continuous psychological guidance toward 2.5 years old children and their mothers, were analysed.

1) Of all behaviors on which their parents feel problematic, eating behavior problem occupied the highest rate, and we could understand almost problems as the developmental characteristics of this period, for instance rebelliousness, spoilt behavior, etc. Their mothers felt trouble or anxiety toward these behaviors

2) Cases whom we determined to be necessary for continuous support were more in boys than girls, and this tendency was found more clearly compared with children at the period of 9 months and 1.5 years old. This result was thought to be some expression of the specific difficulty on child rearing of this period.

Ups and downs of these problems, though, appears to be much fluid, depending on the contact situation between mothers and their children, so that the effectiveness of the adequate support are thought to be great.

Key words : Health examination of the 2.5 years of age, Psychological guidance, Problematic behavior

I 研究目的

9～10か月時点で心理相談を受けた1000名について、その後の発達と母子の問題の経過を指導的な関わりの中で確認したいと考え、一昨年は9～10か月時の、昨年は1歳6か月時の実態と問題点を報告した。

今年はひき続き2歳6か月時の状況を検討することにより、子どもの健全な発達と調和的な母子関係の発展を助ける心理指導の視点を明らかにしようとした。

II 方法

対象は9～10か月時に心理相談を受診した1000名のうち、ひき続き2歳6か月時の心理相談を受けた559名である。対象の背景では、116名に弟妹が出生し、出産予定があるものが57名あって同胞関係に変化が生じているほか、受診者のうち第1子の占める割合がやや多くなっている。対象の背景と関連させて調査数を表1に示す。

検討のために用いたデータは、2歳6か月の健診時に実施している「日頃、母親が扱いに困ったり、気にしている子どもの行動」についてのアンケート調査と心理相談記録である。

これらを対象の背景及び9か月健診時に実施した母親の育児意識調査のうち、1歳6か月時に子どもの行動や養育上の問題に影響を及ぼしていた9項目（順調に育っているか気がかり、子どもの活動に制限や禁止が多い、他の子どもとふれあうことが少ない、子どもの要求がわからず戸惑う、子どもと上手に遊んでやれない、育児は大変だと負担に思う、育児に自信がなく不安や迷いが多い、育児について家族の意見がくい違う、近所に育児のことを話し合う人がいない）と関連づけて分析した。

また、心理相談で継続的な援助の必要性が認められた157名（男児97名、女児60名）については、子どもの発達及び行動上の問題と母子関係や養育上の問題とを関係づけてその内容を分析した。

表1 対象とその背景

対象の背景		N	%
性別	男児	295	52.8
	女児	264	47.2
出生順	第1子	403	72.1
	第2子	141	25.2
	第3子	15	2.7
出生時	37週未満	15	2.7
	2500g未満	33	5.9
	仮死	20	3.5
乳児との接触	経験あり	277	49.6
	なし	253	45.2
次子の出生と予定	次子出生	116	20.8
	出産予定	57	10.2
	なし	386	69.0

III 結果及び考察

1 親が扱いに困り心配する行動

この時期に母親が扱いに困り気になる行動の内容と出現状況を表2に示した。

遊び食い、食が細い、間食を欲しがると食事に関する問題が最も多く、60%が扱いに困る行動としてあげていた。ついで、反抗、睡眠の問題、甘え、排泄の問題、くせの順になっており、扱いに困る行動のほとんどがこの時期の発達に伴う行動としてとらえられるものであるが、母親は心配したり適切な対応を誤って、情緒の安定を乱していることが少なくなかった。

2 扱いに困る行動に影響を及ぼす条件

親が心配し扱いに困る行動の出現に影響を及ぼす条件を検討したものが表3である。行動の出現は、性別、出生順、育児以前に子どもと接した経験の有無（表中では子どもとの経験と省略）、次子の出生、親の育児意識、心理相談の結果と関連がみられた。

扱いに困る行動として最も出現率の高かった食事の問題についてみると、第1子では食が細い、1子と3子では遊び食い、2子では間食を欲しがると多く、次子出産の予定があるものでは遊び食いが、次子が出生したものでは一人で食べないの割合が他と比べて高く、扱いに困

表2 母親が扱いに困ったり心配している行動

項目	心配あり	心配の内容(上位2項目)
わがまま	135 24.7%	
甘える	190 34.8	甘える 28.9 親が離れぬ 9.3
いうことをきかぬ	232 42.5	いうことをきかぬ 29.7 反抗 18.1
かんしゃく	132 24.2	
泣きやすい	133 24.4	泣き虫 18.9
臆病・怖がる	156 28.6	怖がる 21.2 臆病 15.0
乱暴	55 10.1	
落ち着きがない	75 13.7	
消極性	65 11.9	引込思案 7.9 泣かせる 4.4
初めての場・人に	121 22.2	泣く 20.3 人気がない 3.8
友達関係	131 24.0	おしゃべりか 9.9 手放す 9.2
きょうだい関係	51 9.4	きょうだいか 5.3 弟妹を叱る 4.4
食事の問題	328 60.6	遊ぶ 30.5 食嫌 20.0
睡眠の問題	223 41.2	寝寝 32.7 寝て起き 10.2
排泄の問題	183 33.6	おむつか 24.2 トイレか 11.0
くせ	160 29.3	指いぶり 16.8 愛着物執着 8.0
発育・発達の問題	113 20.7	こと遅い 3.5 身体めい 2.0
家族の育児方針	20 3.7	

望月他：保健指導からみた諸問題：子どもの発達と母子関係の継続的考察

る行動の出現は、親子がおかれている状況を微妙に反映するものであった。また、順調に育っているか気がかりな親、育児に不安や迷いが多い親では、心配や不安が少ないものに比べて食事の問題の出現が多かった。

順調に育っているか気になるか、遊びに許容的であるか、子どもの気持ちや要求が汲みとれるか、育児について家族の意見は一致しているかは、子どもの情緒面の行動に影響しており、心理相談の結果、養育上の問題で継続的援助が必要と判断されたものでは、甘え、泣きやすい、おちつきがない、消極的である、友達関係の問題、くせの出現率が高くなっていた。

以上を総体的にみると、親が扱いに困る子どもの行動の出現は、親の養育のあり方と強い関連が認められた。

3 心理相談の所見

2歳6か月時の心理相談所見を対象の背景との関連でみたものが表4である。継続的援助の必要が認められたものは、発達、行動、養育の各領域とも女兒に比べ男児に多く有意差 ($p < 0.001$) が認められた。

出生順では2子に比べて第1子に、育児以前に子どもと接した経験の有無では未経験のものに養育上の問題がやや多く、一般に云われるように女兒に比べ男児の育てにくさや、育児に未経験の親の問題がみられた。

1歳6か月時の心理相談所見と関連させて2歳6か月

時の状況をみたものが表5である。1歳6か月時に継続的援助の必要が認められたもののうち、2歳6か月で状況が改善されていたものが46名あるが、養育面では親の要求が先行して子どもの行動を規制しようとしていたもの、行動面では分離不安や甘えなどの情緒面の問題、発達面では表出言語の遅れ、に改善が目立っていた。

一方、2歳6か月時に新たに援助の必要を認めた事例は76名あり、行動面では分離不安や退行、吃音が目立ち養育面では子どもの主張や要求を受けとめられず、親の意図で一方的に関わったり、迷いや焦りを示して不安定な対応になるものが約半数を占めていた。

表4 2歳6か月時の心理相談所見と対象の背景

心理相談所見		問題なし	発達上の問題	行動上の問題	養育上の問題
全体	N %	402 71.9	39 7.0	109 19.5	105 18.8
性別	男児 女児	66.4% 78.3	10.2% 3.4	22.7% 16.0	21.7% 16.0
出生順	第1子 第2子 第3子	71.1 75.2 66.7	5.7 9.2 20.0	21.1 14.9 20.0	21.1 12.1 20.0
経験	あり なし	73.6 70.6	7.6 6.0	17.3 21.4	14.4 23.0
	2500g以上 未満	72.4 66.7	6.3 18.2	19.8 15.2	18.7 21.2

表3 母親が扱いに困ったり心配する行動と関連する条件

	性別	出生順位	子どもとの経験	次子の出生・出産予定	順調に育っているか	遊びに許容的	気持ち要求の受容	育児が負担になる	育児に不安がある	家族の育児の意見	心理相談の所見
わがまま										不一致*	
甘える		I, II, III**	無) 有*		心配有*		否***				養育***
反抗		I, II, III*		出産予定*	心配有***						
かんしゃく				出産予定*		制限*				不一致*	
泣きやすい				次子出生*		制限**	否*				養育*
臆病・怖がる		I, II, III*	無) 有*								
乱暴	男) 女**										
落ち着きがない		I) II, III*		出産予定*			否*			不一致*	発達行動養育*
消極性		I, II, III*						負担有*			行動・養育***
初めての場人に											行動・養育**
友達関係									不安*		行動・養育**
食事の問題		I) II, III** I, II, III, IV)		出産予定** 次子出生)	心配有**				不安***		
睡眠の問題			無) 有*						不安**		
排泄の問題	男) 女**										発達*
くせ											発・行・養*
発達発達の問題											発・行・養***

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ *** $p < 0.001$ 註 1) 上段：食が細い、下段：遊び食べ 2) 上段：遊び食べ、下段：一人で食べない

9か月、1歳6か月、2歳6か月の3時点の心理相談所見を比較したものが表6である。継続的援助の必要を認めた割合は、年齢とともに増加し、とくに子どもの行動や養育上の問題が増加の傾向を示しており、母親にとってこの時期の育児が困難であることを示すものと考えられる。

心理相談所見の内容を指導的な視点から詳細に分類し発達、行動上の問題と養育上の問題を関連づけてみたものが表7である。行動面では1歳6か月時と同様に、他動・他と関わりにくい、情緒不安定、分離不安が多く、その他、排泄の問題、吃音が目立ってきた。

養育面でも同様に、過干渉、焦り・不安、交渉不足が多いが1歳6か月時と比べてその順位は逆転している。自我の発達に伴う子どもの主張や行動の活発化に対して、過度の要求や干渉をして子どものペースに合わせに

くいものが最も多くなり、他児との交渉が増えるなかで子どもがもつ発達や行動上の問題に焦りや不安を示すものが目立っていた。

以上、心理相談所見を総体的にみると、母子の問題の消長は子どもの発達変化や生活背景の変化に関連して、かなり流動的な経過をたどる傾向がみられた。これは、子どもを知らず、育児に自信をもてない母親が、子どもの発達に伴う行動の変化に適切に感じかねているためであると考えられ、この経過の中で母子関係の歪みを生じやすい時期であるということが出来る。

このため、この時期の子どもが示す行動特徴や、その意味や背景を把握した適切な支援の必要性が認められ、それにより母親が安定した育児をすすめることの効果が期待できる。

表5 1歳6か月時の心理相談所見との比較

1:6時	2:6時	問題なし	発達上の問題	行動上の問題	養育上の問題
問題なし	402名	329名 81.8%	13 3.2	50 12.4	49 12.2
発達上の問題	46	15 32.6	17 37.0	19 41.3	17 37.0
行動上の問題	54	23 42.6	7 13.0	26 48.1	27 50.0
養育上の問題	75	37 49.3	5 6.7	30 40.0	33 44.0

表6 3時点の心理相談所見の比較

相談時点	受診数	問題なし	要継続援助	要継続援助の理由		
				発達	行動	養育
9~10か月	1000	876名 87.6%	124 12.4	43 4.3	98 9.8	98 9.8
1歳6か月	794	605 76.2	189 23.8	74 9.3	80 10.1	114 14.4
2歳6か月	559	402 71.9	157 28.1	39 7.0	109 19.5	105 18.8

表7 2歳6か月時の発達、行動、養育上の問題内容

子どもの問題		発達上の問題 N=40					行動上の問題 N=148									
		全体発達	運動機能	言語発達	表出言語	その他	多動 ゆとり	情緒不安	抑圧	分離不安	集団適応	習癖	食事問題	排泄問題	友達関係	兄弟関係
養育上の問題	N	7	1	23	7	2	36	34	3	33	2	16	6	12	5	1
N=129	%	17.5	2.5	57.5	17.5	5.0	24.3	23.0	2.0	22.3	1.4	10.8	4.1	8.1	3.4	0.7
過保護	1	0.8														
過干渉	35	27.1	1		2		1	10	5	3	11	1	1	5	3	
拒否	9	7.0			1			2	2	1	2					
交渉不足	22	17.1			2		1	5	9		3	1	4	3	2	1
関係不安定	5	3.9						2	1		2	1				
焦り・不安	33	25.6	1	1	4			8	9		10	2	1	1	1	
精神衛生	6	4.7							4		4	1	2	1		
母の感受性	4	3.1						1	1		2	1				
育児知識	2	1.6									1					
家族の問題	10	7.8							3			2				
その他	2	1.6									1					1
非該当	53		5		14	7		11	10		7	1	8	1	4	1